

I 「私たちの律法は、まず本人から話を聞き、その人が何をしているか知ったうえでなければ、さばく（判断すること）をしないのではないか」ヨハネ7：51。

聖書の大切な教えは、何かを、判断をする時、うわさや人から聞いた事で判断するのではなく、まず、本人から話を聞き、その人が何をしているか知ったうえでなければ、さばいたり、最終判決をしてはならない。これはいつの時代にも、適用できる大原則である！

「偽りのうわさを口にしてはならない。悪者と組んで、悪意のある証人となってはならない。多数に従って悪の側に立ってはならない。訴訟において、多数に従って道からそれ、ねじ曲げた証言をしてはならない。また、訴訟において、弱い者を特に重んじてはいけない（強い者を特に重んじる事は、いつの世も、行われるので、その禁止は、前提にある。つまり、すべての立場の人に公平な判断をなさいという事）」

出エジプト記23：1，2。

II 「二人の証人または三人の証人の証言によって、死刑に処さなければならない。一人の証言で死刑に処してはならない」申命記17：6。

正しい判断をする為には、一人の証言では、偏りがあり、客観性に乏しいからである。二人、三人の複数の証言が必要。私たち人間は、同じ事を見ても、同じ事を聞いても、それぞれの心、感情で、視点、理解の仕方が変わる。二人、三人の証言者は、話を合わせるのではなく、人間的な一致ではなく、それぞれが、すべてを正しく見ておられる神に祈り、「自分が私情を入れないで、できる限り冷静に証言できるように」祈りながら語りたい。

III 箴言の教え。

「最初に訴える者は、その相手が来て彼を調べるまでは、正しく見える」箴言18：17。

最初に、人が、ある人の事を悪く言っても、それだけで判断してはいけない。両方の言い分を良く聞いて、調べて、祈りつつ判断したい。

IV 「もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで指摘しなさい（良い訳。これまでの皿版は、「責めなさい」。責めるだけなら、相手は心を閉ざす。解決にはならない）。その人があなたの言うことを聞き入れるなら、あなたは自分の兄弟を得たこととなります。もし聞き入れないなら、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。二人または三人の証人の証言によって、すべてのことが立証されるようにするためです」マタイ18：15，16。

聖書は、

①他人にうわさを広めることを禁じ、相手を愛し、責める事が目的ではなく、相手の悔い改め、回復、和解を目的として、まず、本人と二人だけで話す事を教えている。

②片寄った判断をしない為に、二人か三人の客観的な証言により、すべての事が正しく立証されるようにする事を教えている。

V 「長老に対する訴えは、二人か三人の証人がいなければ、受理してはいけません」Iテモテ5：19。

長老にだけでなく、若い人に対する訴えがあった時、一人の人の感情的、片寄った訴えだけで判決が下されないように、冷静になり、神の前に誠実な、二人か三人の客観的な証人が必要である。それは、神の前に、事を真実に扱う為である。

VI「主が来られるまでは、何についても先走ってさばいてはいけません。主は、闇に隠れたことも明るみに出し、心の中のはかりごともしっかりと明かされます。そのときに、神からそれぞれの人に称賛が与えられるのです」  
Iコリント4：5。

何についても先走ったさばき（判断、最終判決）をしてはいけません。

神は、この世の秩序を守るために、裁判制度、警察、検察に権威を与えておられる（ローマ13章）。

しかし、その神から預けられた権威を乱用してはならない。残念ながら、世界中で乱用されているが。

私達人間が、謙遜に自覚しておくべき事がある。それは、私たち人間は、神ではなく、あくまでも、誤った判断を下す弱さがあるという事である。だからこの地上では、冤罪もある。残念な事だが。

しかし、唯一正しい判決がお出来になる神は、世の終わりに、正しい審判を下される。この世では、多くの不条理があるが、私達は、最後にすべてを正しく裁いて下さる神に委ねることが出来る！

VII 私達は、人をさばく前に、正しい判断が出来るように、自分自身が、主の御姿、主の御性質、御霊の実（愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制）に変えられ続ける恵みが最も大切である。心が、ゆがんでいけば、私達の判断も、物事を見る目、証言する言葉も、ゆがんでしまう。

神のみこころにかなう判断ができますように！その為の御言葉→

「この世と調子を合わせてはいけません（人の悪口やうわさ話を聞いても、それらに振り回されてはいけません。事実が確認される必要がある。自分が悪口、うわさを流してはいけません。事実が確認される必要がある）。

むしろ、心を新たに（御聖霊といのちの御言葉により）ことで、自分を変えていただきなさい

（Ⅲ版までの訳「自分を変えなさい」。これは原語とは違う。私達は、自分の力で自分を変える事は出来ない。2017版の新しい訳「自分を変えていただきなさい」。これは原語にふさわしい良い訳である。私達は、自分の力では無理でも、神に自分を変えていただく恵みがある！実際に神は私達を変え続けて下さる！）。

そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります」ローマ12：2。

神は、性急に事の判断をせず、事の真実を両方の側から聞き、真実を語り、語るべき時と口を制し、黙すべき時を見分ける判断力を与えて下さる。

祈り：私達は、うわさや悪口に惑わされることなく、可能なら、まず本人から聞く事が出来ますように。

誠実な複数の証人により判断を公正に出来ますように。

自分自身が、悪口を言ったり、うわさを流す事がないように、御霊の實の自制で、私の口を制して下さい。

すべてを完璧に知り、見、判断できるのは真の神のみである事を認め、へりくだり、最後の最終判決は、すべてを正しく裁かれる神に委ねることが出来ますように！